

漢史一斑  
三卷

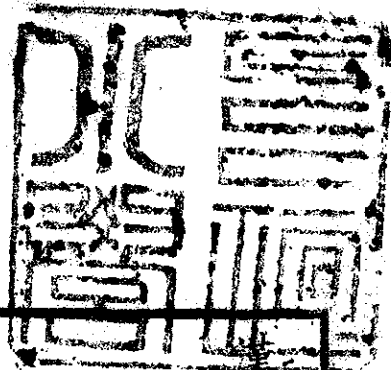
T1A1  
25  
Ko71

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 3 6 2 3 a

福岡教育大学蔵書



漢史一斑 第三卷

小永井八郎 編

宋紀

姓ハ趙氏、源郡ノ人太祖ヨリ、欽宗ニ至ルマテ大梁ニ都ス、高宗南渡ヨリ、帝昀

臨ニ至ルマテ

太祖皇帝

諱ハ匡胤、父馬營ニ生ル、亦光室ニ滿ツ

周恭帝宗訓元年、宋太祖趙周ノ殿前都點檢趙

匡胤皇帝

ト稱シ、國ヲ宋ト號ス、周主宗訓ヲ廢

テ鄭王トス、

周主開寶六年ニ初鎮定二州言

漢契丹ト入寇

スト、周主匡胤ヲ遣リテ兵

ヲ之ヲ禦カシム、

都下讒言入、點檢ヲ冊

トセント、又日下復一日アリテ黒光相照  
ル者アリテ曰ク、此天命ナリ、是夕大軍出  
橋驛ニ次ル、將士相聚リ、黎明ニ匡胤力寢所  
リテ曰ク、諸將主ナレ願クハ大尉ヲ策シテ皇  
トセン、黃袍早ク已ニ身ニ加フ、衆羅拜シテ萬歲  
ト呼ヒ、扶掖シテ馬ニ上セ、汴ニ還リ、崇元殿ニ詣  
テ禪代ノ禮ヲ行フ、周ノ昭儀節度使李筠兵ヲ起  
シ北漢ニ會シテ宋ヲ伐ツ、宋主自將トシテ澤州  
ヲ圍ミ其城ニ克ツ、李筠之ニ死ス、宋竇儀ヲ翰林  
學士トス、宋主宰相ニ謂フ、深嚴ノ地宿儒ヲ處ク

ヘシ、范質等對テ曰ク、儀清介重厚ナリ、即翰林  
入ル、二年、宋ノ太后杜氏歿ス、后疾ム、趙普ヲ召  
シテ遺命ヲ受ケシム、宋主ニ謂フ、柴氏幼主ニシ  
テ天下ニ主タリ故ニ汝能、此ニ至ル、汝百歳ノ後  
光義光美ニ傳ヘテ德昭ニ及ホスヘシ、宋主泣テ  
曰ク、敢テ教ノ如クセサラシヤ、普誓書ヲ爲タリ、  
紙尾ニ署シテ臣普記スト曰フ、三年東京城  
廣ム、洛陽ヲ西京ト曰ヒ、汴ヲ東京ト曰ヒ、宋主諸門ヲ開洞セ  
左右ニ謂フ、此我心ノ如シ、邪曲アレハ人皆  
見ル、乾德二年、前年荆南湖南平久宋趙普ヲ司平

ス、宋主徽行入、一日大雪アリ、夜普ノ門ヲ  
惶恐拜迎シ、炭ヲ熾キ、肉ヲ焼キ、普ノ妻行  
テ與ニ太原ヲ下スヲ計ル、普曰ク、太原ハ西  
當タレリ既ニ之ヲ下セハ、我獨邊患ニ當ラン  
國ヲ削平スルヲ俟ソニ如カス、三年、宋ノ王金  
氐蜀ヲ伐ス、蜀主孟昶降ル、四年、宋ノ竇儀卒ス、  
初宋主宰相ニ命シ前代未有ラサル年號ヲ擇ス、  
蜀ヲ平ルノ日鏡ヲ得タリ、乾德四年鑄ルノ字ヲ  
リ、儀ニ問ス、儀曰ク、蜀主王衍此號アリ、宋主歎  
テ曰ク、宰相ハ須讀書人ヲ用ヰルヘシ、開寶四

年、唐號ヲ江、宋ノ潘美廣州ニ克ツ、南漢主劉鋹降  
ル、鋹國ニ在テ多ク臣下ヲ酖殺ス、一日宋主酒ヲ  
賜フ、鋹毒アルカト疑ヒ、盃ヲ捧テ泣ク、宋主咲テ  
曰ク、朕赤心ヲ人ノ腹中ニ置ク、安ンソ此事アラ  
ンヤ、鋹ノ酒ヲ取テ自飲シ別ニ酌テ鋹ニ賜フ、鋹  
大ニ懇謝ス、六年、趙普免ス、普獨相タルコト十  
年、頗專ナリ宋主其第二幸ス、會吳越海物ヲ贈  
リ、宋主問テ之ヲ啟ケハ、瓜子金ナリ、普惶恐  
謝ス、後雷德驤ノ子有鄰普ヲ訟テ父ノ冤ヲ  
德驤ヲ名シテ秘書丞トシ、有鄰ヲ正字ニ擢

安シセス、出テ、河陽三鎮節度使タリ。  
曹彬ヲ遣リ、兵ヲ將井テ江南ヲ伐ツ、彬ヲ戒  
掠殺戮ヲ禁ス、師進ミテ宋石ニ次ル、渚渚ヲ  
テ江ヲ渡ル、八年、是歲江南亡、曹彬金陵ニ克ツ、江  
主煜降ル、江南主徐鉉ヲ使ハレ師ヲ緩クセント乞  
フ、鉉宋主ヲ見テ論辯已マス、宋主劒ヲ按レ怒ヲ  
曰ク、多言ヲ用井ス、天下ハ一家ナリ、卧榻ノ側豈  
他人ノ鼾睡ヲ容レンヤト城陷ラントス、彬忽疾  
ト稱ス、諸將來リ問フ、彬曰ク、惟諸君信誓ニ、城ニ  
克ツノ日一人ヲ妄殺セスハ、余疾即愈セン、諸將

香ヲ焚テ誓フ、城陷リテ、煜降ル、九年、太宗太平興國元年  
帝崩ス、晋王光義即位ス、帝疾大漸ス、宋后宦者王  
繼恩ヲ遣リテ皇子德芳ヲ召ス、繼恩徑ニ晋王ヲ  
召ス、后晋王ヲ見テ愕然タリ、遽ニ呼テ曰ク、吾母  
子ノ命皆官家ニ托セリ、晋王泣テ曰ク、共ニ富貴  
ヲ保テ憂ナケン、帝崩

皇后

王即位ス、弟廷美、即美  
兄ノ子德昭ヲ武功郡  
王、太宗皇帝

四年、是歲

從テ幽

謀ル者アリ

ヲ行ハス、德昭爲ニ

カ自爲スヲ待ツモ未

後二年德芳亦卒ス

意ヲ

ヲ普對テ曰ク、太祖已ニ誤ル陛下再誤ルヘケン

ヤ廷美モ亦遂ニ罪ヲ得タリ、後房州ニ卒ス、八

年、呂蒙正ヲ參知政事トス、朝士アリ指テ曰ク、此

子モ亦參政カ、蒙正佯テ聞カス、同列其姓名ヲ詰

ル、蒙正止メテ曰ク、若一タヒ姓名ヲ知ラハ、終身

忘ルコト能ハサラン、雍熙三年、曹彬田重進潘

美等ヲ遣リテ契丹ヲ伐ツ、岐溝關ニ大敗ス、張齊

賢契丹ヲ代州ニ敗ル、淳和二年、寇準ヲ樞密副

使トス、準事ヲ奏シテ令ハス、帝怒テ起ツ、準輒帝

ノ衣ヲ引テ坐ニ復ラシム事決レテ退ク、帝之ヲ

嘉シ、朕カ寇準ヲ得ル

朕ヲ得

民

道元年、呂端

呂端太子、在ラサル

シテ入侍セシム、帝崩ス、奉

宗皇帝、諱ハ恒、太宗

咸平元年、李沆、同平章事

トス、帝嘗テ沆ニ謂テ曰ク、人々ナ密啟アリ、卿獨

ナキハ何ソヤ、對テ曰ク、臣罪ヲ宰相ニ待ツ、公事

ハ公言ス、何ソ密啟ヲ用井ン、景德元年、尚書右

僕射、同平章事、李沆卒ス、沆日ニ四方ノ水旱盜賊

ヲ奏ス王且謂フ細事奏スルニ足ノスト沆曰ク、  
人主少年ナリ、四方ノ艱難ヲ知ラシムヘン、然ラ  
スハ血氣方ニ剛シ、意ヲ聲色犬馬ニ留メサレハ  
土木甲兵禱祀ノ事興ラント、大中祥符中、封禪祠  
祀土木ノ事果シテ興ル、且歎シテ曰ク、李文靖ハ  
眞ノ聖人ナリ、畢士安、寇準ヲ同平章事トス、士安  
曰ク、準忠義ニシテ善大事、  
所ナリ、  
王

ヲ望見シ

ヤ夫ル、既ニシテ書ヲ奉シテ盟ハ  
ハス、其臣ト稱シ幽州ヲ獻センコトヲ欲スレト  
モ、帝兵ヲ厭ヒ、且譖者ニ沮メラレ、己ムヲ得スシテ  
其請ヲ許ス契丹誓書ヲ來タシ北歸ス、三年、寇  
準ヲ罷テ知陝州トシ、王欽若ノ譖ニ因テナリ準  
陝ニ在リ、張詠適成都ヨリ還ル、準之ヲ送り、問テ  
曰ク、何ヲカ準ニ教ヘン詠曰ク、霍光ノ傳讀ヤム

ハアルハカラス、準歸テ之ヲ讀ム、不學無術ニ至  
リ、咲テ曰ク、此張公我ヲ謂フナリ、大中祥符元  
年、帝澶州城下ノ盟ヲ辱ナテ樂マス、王欽若曰ク  
請フ封禪シテ四海ヲ鎮服シ、外國ニ誇示セン、是  
ニ於テ天書降ルト稱シ、泰山ニ封シ、社首ニ禪ス、  
天禧元年、王欽若ヲ同平章事トス、帝久シク、  
若ヲ相トセントス、王且不可、

人ニ語リテ曰

トヲ遲クセフ

ナリ丁謂ト



拂、準笑之

爲メニ黷ヲ拂

ニ因テ、皇后劉氏ト謀テ遂ニ

帝崩ス、皇后ニ遺詔、第一

太子禎即位ス、冠準ヲ貶シテ

李迪ヲ衡州團練副使トス、下謂二人ノ明黨ヲ誣

ニ之ヲ貶シ、參政王曾奏ス、謂禍心ヲ包藏ス、真宗

、山陵雷允恭ニ命シテ檀ニ皇堂ヲ絕趾ニ移ス

ト、遂ニ謂フ崖州司戸參軍ニ貶ス、仁宗諱ハ禎

第六、明道二年、皇太后劉氏崩ス、后制ヲ稱スルコ

ト十一年號令嚴明ナリ、人武后臨朝ノ圖ヲ獻ス、  
后地ニ擲ナテ曰ク、吾此祖宗ニ負クノ事ツキス、

景祐三年、知開封府范仲淹集賢校理余靖館閣

校勘尹洙歐陽修ヲ外ニ貶ス、仲淹數、時政ヲ議ス、

呂夷簡其職ヲ越ユルヲ訴ヘテ之ヲ罷ム、余尹之

ヲ爭テ皆貶セラル、歐陽修書ヲ以テ諫官高若

カ諫メサルヲ責ム、若訥其書ヲ奏ス、修亦貶

ル、蔡襄四賢一不肖ノ詩ヲ作ル、寶元元年、

吳夏銀宥靈鹽會勝甘涼瓜沙肅等ノ地ヲ據

テ帝ト稱ス國ヲ夏ト號ス、康定元年、元昊

冠ス、范雍敗ル、范仲淹自請ヲ行キ、大ニ  
訓練シ、更出テ之ヲ禦ク、賊相戒メ曰ク、延州  
トスルコト勿レ、小范老子ノ腹中自數萬ノ  
アリ、大范老子雍ノ欺ク可キカ如クナラス、  
仲淹韓琦并ニ陝西ノ安撫招討使トナル、二人  
令嚴命、士卒ヲ愛撫レ、誠ヲ推レテ諸羌ヲ撫接ス、  
羌敢テ邊ヲ犯サス、邊人謠テ曰ク、軍中有一韓、而  
賊聞之、心膽寒、軍中有一范、西賊聞之、驚破膽、慶  
歷二年、契丹西夏ノ亂ニ乘リ、來テ周ノ世宗カ復  
スル所ノ關南ノ地ヲ求ム、時ニ呂易簡事ヲ專ニ

ス、知制誥富弼數之ヲ侵ス、易簡弼ヲ罪セシトシ  
弼ヲ契丹ニ報使ス、弼割地ノ乞ヲ拒テ還リ奏ス、  
再至ル時、易簡之ヲ陷レントレ、國書故ニ異同ア  
リ、弼疑ヒ密ニ啟テ之ヲ觀ル、乃復回奏シテ易簡  
ヲ面責シ、書ヲ易ヘテ往キ、遂ニ歲ニ銀絹十萬ヲ  
增賂シ、和議ヲ定メテ還ル、三年歐陽修王素蔡襄ヲ  
知諫院トシ、余靖ヲ右正言トス、修切直事ヲ論ス  
人之ヲ仇視ス、帝獨其敢言ヲ獎メ、侍臣ヲ顧テ曰  
ク、歐陽修ノ如キ者、何ノ處ヨリ得來ル、元昊和ヲ  
請フ、韓琦范仲淹ヲ名シ還ス、仲淹ヲ參知政事、

陝西宣撫使富弼ヲ樞密副使トス、四年、  
復使ヲ遣ヒ、上表ス冊シテ夏國主トス、九世ハ  
ホサ五年、杜衍范仲淹富弼ヲ罷メ、衍ノ壻蘇軾  
欽進奏院ヲ監ス、例ニ神ヲ祠ルニ伎樂ヲ以テ賓  
ヲ會ス、御史中丞王拱辰素ヨリ衍ノ所爲ヲ便ト  
セス、因テ其事ヲ攻ム、罪ヲ得ル者十餘人、拱辰喜  
テ曰ク、吾一網打盡スト、衍中俺弼等去ル琦之ヲ  
辨析ス、亦罷ラル、皇祐三年張堯佐ヲ宣徽使ト  
ス、張貴妃ノ叔父タルヲ以テナリ、殿中御史唐介  
之ヲ抗論ス、遂ニ宰相文彦博ニ及フ、帝怒テ介ヲ

英州ニ貶ス、彦博モ亦罷ラル、五年荆湖ノ宣撫  
使狄青大ニ儼智高ヲ邕州ニ敗ル、智高廣源州ニ在リテ南天國ト  
僭稱廣南平ク、至和二年、文彦博富弼ヲ同平章  
事トス、帝相ヲ置クヲ王素ニ問フ、素曰ク、惟宦官  
官妾姓名ヲ知ラサル者、其選ニ充ツヘレ、帝曰ク、  
則富弼ノミ、遂ニ相トス、嘉祐五年、王安石ヲ三司  
度支判官トス、安石議論高奇、世ヲ矯メ俗ヲ變ス  
ルノ志アリ、六年、歐陽修ヲ參知政事トス、時ニ  
韓琦首相タリ、法令典故ハ曾公亮ニ問ヒ、文學ハ  
修ニ問フ、三人同心シテ政ヲ輔久、朝廷治ト爲ス、

七年、宗實ヲ立テ、皇子トス、群臣儲位未  
サルヲ憂フ、知諫院司馬光カ請ス、帝感動シ、詔レ  
テ宗實ヲ立ツ、八年、帝崩ス、鉅鹿郡公曙即位ス  
英宗皇帝諱ハ宗實、名ヲ曙ト更ム、仁宗ノ從兄濮ノ安懿王ノ子治平二  
年、濮王ヲ崇奉スル典禮ヲ議ス、司馬光言フ、皇伯  
ト稱スヘシ、歐陽修謂フ、名ハ没ス可カラス、本生  
ノ親、改テ皇伯ト稱スハ前典ナレ、遂ニ詔レテ親  
ト稱ス、園ニ即テ廟ヲ立ツ、四年、帝崩ス、初帝疾  
アリ、皇太后曹氏權ニ同レテ政ヲ聽ク、太子即位ス、  
歐陽修濮王典禮ノ議ヲ以テ衆詆己マシ、遂ニ罷メ

ラル、韓琦相ヲ罷ム、帝謂フ、卿去ラハ誰ニ國ヲ屬セ  
ン、安石ハ何如シ、琦曰ク、王安石翰林學士タレハ  
餘アリ、輔弼ノ地ニ處ク可カラス、神宗皇帝諱ハ  
項、英宗ノ太子熙寧二年、富弼ヲ同平章事トス、王安石  
ヲ參知政事トス、弼入リテ曰ク、朝廷ハ靜ヲ守ル  
ヘシ、動作シテ事ヲ生スレハ小人必希覬セシ、安  
石風俗ヲ變レ、法度ヲ立テント欲ス、唐介モ亦曰ク、  
安石古ニ泥ミ迂濶ナリ、三司條例司ヲ創シ、議レ  
テ新法ヲ行フ、陳升之王安石其事ヲ領ス、安石言  
フ、周ニ泉府ノ官ヲ置テ、天下ノ財ヲ變通ス

法ヲ修テ利權ヲ收ムヘシ、時ニ安石ヲ以テ入  
得ルトセリ、御史中丞呂誨獨然リトセズ、入對セ  
ントシテ司馬光ニ遇フ、光曰ク、今日何事ヲカ言  
フ、誨曰ク、袖中ノ彈文ハ新參ナリ、光愕然トシテ  
曰ク、奈何ソ之ヲ論スル、誨曰ク、君實<sub>光ノ</sub>亦是言  
アリヤ、上疏シテ安石ヲ論ス、遂ニ罷ノラル、呂惠  
卿安石ニ附和ス、條例司檢詳文字蘇徹論多ク合  
セズ、出テ、河南推官タリ、初、安石青苗ノ法ヲ行  
ハントス、<sub>常平等ノ糶本ヲ以テ人戸ニ散與レ</sub>徹  
曰ク、錢ヲ以テ民ニ貸セハ、吏緣テ姦ス、錢民手ニ

入レハ、良民モ妄用ヲ免レズ、其納錢ニ及テハ、富  
民モ違限ヲ免レズ、恐ラクハ鞭箠必用ナリ、州縣  
ノ事煩レカラン、三年、河北安撫使韓琦上疏レテ  
青苗法ヲ罷メント請フ、王安石病ト稱シテ朝セズ、  
詔諭レテ之ヲ起コス、司馬光再三新法ノ非ヲ開  
陳ス、呂公著モ亦青苗ヲ論ス、會、帝呂惠卿ヲ御史  
トセントス、公著曰ク、姦邪用ナラズ可カラス、安石  
怒ヨ、公著ニ積ミ、之ヲ潁州ニ貶ス、諸新法ノ不便  
ヲ言フ者、帝皆聽カス、帝監察御史裏行程顥ヲ中  
書ニ詣ラシメ、新法ノ非ヲ議ス、安石色ヲ勵マ

テ待ツ、願徐ニ曰ク、天下ノ事ハ一家ノ私言ニ非  
ス、願クハ平氣之ヲ聽ケ、安石愧屈ス、願遂ニ罷ラ  
シ、直史館蘇軾ヲ杭州ニ出シ、秦鳳ノ經略使李師  
中ヲ舒州ニ貶ス、師中嘗テ安石ヲ論レテ曰ク、安  
石眼白多シ甚、王敦ニ似タリ、他日天下ヲ亂サン、  
翰林學士范鎮青苗ノ害ヲ極言シ、遂ニ致仕ス、保  
甲ノ法ヲ立ツ、十家ヲ保トス、五十家ヲ大保トス、  
保正副トス、自武藝ヲ習フヲ聽ル王安石王珪ヲ參知政事トス、  
募役ノ法ヲ行フ、人戸ヲ等第シテ、免役錢ヲ輸レ、人ヲ募リテ役ニ充ツ司馬  
光之ヲ爭フ、帝聽カス、四年、司馬光ヲ判西京留

臺トス、光洛ニ歸リ絶エテ復新法ヲ論セス、王雱ヲ  
崇政殿說書トス、雱ハ安石ノ子ナリ、一日安石程  
顥ト語ル、雱問フ何ヲ言フ、安石曰ク、新法ヲ論ス、  
雱大言シテ曰ク、韓琦富弼ノ首ヲ梟セハ、行ハレ  
シ、顥曰ク、方ニ參政ト國事ヲ論ス、子弟預ル可カ  
ラス、五年、市易ノ法ヲ行フ、凡貨ノ市ノ可ク、及  
錢之ヲ保馬ノ法ヲ行フ、保甲馬ヲ養ハント願フ  
市ス、直ニ與フ、歲ニ肥瘠ヲ問シテ死病ハ償ス、七年、大旱ス、詔シテ直言  
ヲ求ム、時ニ征斂苛急流民道ニ塞カル、監安上門  
鄭俠見ル所ヲ圖シテ上ル、且云フ、安石ノ去ノ

十日雨ヲラスハ臣ヲ斬レ帝長吁シテ權ヲ  
ヲ罷ハ此日果シテ雨フル群姦切齒人孫一俠ヲ  
獄一下レ復新法ヲ行フ王安石免ス韓絳ヲ同平  
章事呂惠卿ヲ參知政事トス手實ノ法ヲ行フ免  
錢出ス均レサ以テ人戸丁口田  
實ヲ具セシム有隱落アレハ告ル者ニ具ニ  
實ス呂惠卿初王安石ヲ迎合ス既ニ志ヲ得テ  
安石ヲ害スルコト百方絳惠卿ト争ヒ密ニ安石  
ヲ復セシコトヲ請フ安石再入ル後數月絳惠卿  
皆免ス司徒侍中魏琦卒ス帝自碑文ヲ製ス篆シ  
テ兩朝顧命定策元勳ト曰フ韓絳ニ詔シ河東ニ

如キ是ヲ割テ遼ニ界ス九年王安石免ス吳充  
王珪相タリ元豐二年知湖州蘇軾ヲ獄ニ下ス  
貶シテ黃州團練使トス軾事ヲ敢言セスレテ詩  
ヲ作り托諷スルヲ以テ李定舒亶等其語ヲ侮慢  
ナリトシテ之ヲ罪ス軾ノ詩案ニ坐シテ黜罰セ  
ラル者弟轍及張方平司馬光范鎮等凡二十三人  
六年太師文彥博致仕ス彥博河南ニ在リテ白  
居易ノ故事ヲ用井テ富弼ノ第二置酒シテ相樂  
ム嵩ヲ尚ヒテ官ヲ尚ハス洛陽名園古刹多シ諸  
老相會ス者英會ト謂ス七年端明殿學士司馬

光通鑑ヲ上ツル、英宗ノ時ヨリ十九年ヲ歷テ成  
ル、八年帝崩ス、太子即位ス、太皇太后朝ニ臨ミ  
政ヲ聽ク、司馬光洛ヨリ入リテ、臨ス、衛士望見シ  
テ、皆手ヲ額ニ加テ曰ク、此司馬相公ナリ、民道ヲ  
遮リテ曰ク、願クハ留リテ相トナリ、百姓ヲ活セ  
ヨ、遂ニ門下侍郎トス、呂公著ヲ尚書左丞トス、民  
歡呼歌舞ス、哲宗皇帝諱ハ煦神宗第六子元祐元年  
司馬光ヲ尚書左僕射兼門下侍郎トス、時ニ光已  
ニ疾ヲ得タリ、呂公著ニ謂フ、光身ヲ醫ニ付シ、家  
事ヲ愚子ニ付ス、唯國事未トスル所アラズ、今以

テ公ニ屬ス、青苗免役ノ法ヲ罷ム、王安石卒ス、安  
石自奉スル至儉ナリ、衣垢ツケトモ洗ハス、世其  
賢ヲ稱ス、蘇洵獨曰ク、是人情ニ近カラスト、辨姦  
論ヲ作リテ之ヲ刺シ、呂惠卿罪アリ、建州ニ安置  
ス、蘇軾ヲ翰林學士トス、二年、崇政殿說書程頤  
ヲ罷ム、頤經筵ニ進講ス、色甚莊ナリ、繼テ風諫ス  
蘇軾人情ニ近カラスト謂テ、毎ニ玩侮ヲ加フ、頤  
ノ門人朱光庭賈易軾ヲ力攻ス、遂ニ群賢分黨シ、  
洛黨蜀黨朔黨アリ、洛ハ頤ヲ首トス、蜀ハ軾ヲ首  
トス、朔ハ劉摯王巖叟等ヲ首トス、而レテ元豐ノ



姦黨陰ニ其隙ヲ伺フ、六年、蘇轍ヲ尚書右丞ト  
ス時ニ熙豐ノ舊臣多ク邪說ヲ起ス、呂大防劉摯  
之ヲ患ヒテ、稍其黨ヲ引テ夙怨ヲ平ニセントス、之  
ヲ調停ト謂フ、轍君子小人同處ス可カラサルヲ  
論ス調停ノ說遂ニ已ム、八年太皇太后高氏崩  
ス、后疾ム、呂大防范純仁等ニ謂テ曰ク、老身没後  
必多ク官家ヲ調戲スル者アラシ、宜レク聽ク勿  
ルヘシ、后朝ニ臨ムコト九年、天下女中ノ堯舜ト  
ス、帝親政ス、群小カメテ太后ノ時事ヲ排ス、遂ニ  
章惇呂惠卿ノ官ヲ復ス、紹聖元年、蘇轍范祖禹

范純仁等皆罷メラル、章惇蔡京相タリ、淳元祐名臣  
ノ罪ヲ治ムルコト屢日ナレ、三年、帝崩ス、端王  
侁即位ス、太后權ニ同ク政ヲ聽ク、太后ハ神宗ノ  
范純仁等ノ官ヲ復ス、蔡卞章惇蔡京等踵テ免ス、  
文彥博司馬光等三十三人ノ官ヲ追復ス、太后政  
ヲ聽クヲ罷ム、韓忠彥曾布ヲ尚書左右僕射兼門  
下中書侍郎トス、徽宗皇帝諱ハ佶、神宗ノ第十一子、建中  
靖國元年、章惇ヲ貶シテ雷州司戸參軍トス、後睦  
州ニ卒ス、復蔡京ヲ復ス、崇寧元年、復司馬光等  
ノ官ヲ追貶シ、元祐ノ黨人ヲ藉ス、蔡京ヲ尚書右

僕射兼中書侍郎トス元祐ノ法ヲ禁シ黨人ノ碑  
ヲ立ツ明年是變ヲ以テ碑ヲ毀シ蔡京免四年  
朱勔ヲ以テ花石綱ヲ領セシム蔡京浙中ノ珍異  
ヲ進ム舳艫淮汴ニ相銜ム花石綱ト號ス一石一  
木ノ妙輒上供ス下其害ヲ被ル者多シ政和元年  
宦者童貫遼ノ趙良嗣初姓名ハ馬植ヲ以テ來ル貫寵ヲ  
得タリ遼ニ使ス燕人馬植迎ヘテ燕ヲ伐ツノ策  
ヲ言フ貫載セテ歸ル四年女真ノ阿骨打遼ニ  
叛ス遼之ヲ伐チテ大敗ス五年阿骨打帝ヲ稱  
シ國ヲ金ト號ス遼ヲ伐チ混同江ヲ渡リ黃龍府

ヲ取ル重和元年蔡京童貫ノ議ニ從テ馬政ヲ  
金ニ使シ夾テ遼ヲ攻ムルヲ約ス宣和元年童  
貫ヲ太傅トシ蔡攸ヲ開府儀同三司トス京攸父  
子各門戸ヲ立テ遂ニ仇敵トナル明年京攸四年  
童貫蔡攸ニ詔シ兵ヲ勒シテ遼ヲ代ツ先ニ趙良  
嗣金ニ使シ夾テ遼ヲ攻メ金ハ中京ヲ取り宋ハ  
燕京ヲ取ラント約ス是ニ於テ王黼帝ニ勸ム帝遂  
ニ決意ス東路ノ兵自溝ニ趨キ西路ノ兵范村ニ  
趨ク遼ノ師戦力ム我師敗績ス詔シテ師ヲ班ス  
朝奉郎宋昭上書シテ極諫ス遼攻ム可カラス金

隣ル可カラス異時金必中國、患ヲ爲シ乞フ王  
黼童貫等ヲ誅セント、昭因テ名ヲ除カル、金燕京  
ニ克ツ、五年金ノ阿骨打死ス、弟吳乞買立ル、金  
人燕京ニ入ル、其知平州張敦來降ス、金人來リテ、  
叛ヲ納ルヲ責ム、朝廷已ムコトヲ得ス、敦ノ首ヲ  
斬テ金ニ昇フ、七年金ノ將婁室遼主ヲ獲テ歸  
ル、遼主金ノ將粘沒喝幹離不道ヲ分テ入寇ス  
童貫太原ヨリ逃歸ス、粘沒喝入リテ太原ヲ圍ム、  
幹離不攢薊州ニ入ル、郭藥師燕山ヲ以テ金ニ降  
ル、金盡ク燕山州縣ヲ陷ル、帝金兵日ニ迫ルヲ以

テ内禪ニ意アリ、太常少卿李綱給事中吳敏又之  
ヲ請ム、帝意遂ニ決ス、位ヲ太子ヲ傳フ、李綱ヲ兵  
部侍郎トス、時ニ金地ヲ割クヲ議ス、綱言、祖宗  
ノ疆上、當ニ死ヲ以テ守ルヘシ、尺寸モ人ニ與フ  
可カラス、欽宗皇帝諱ハ桓、徽宗ノ長子靖康元年梁方平  
ノ師黎陽ニ潰ス、河南ノ官軍敵ヲ禦ク者ナシ、金  
人遂ニ渡ル、笑テ曰ク、南朝人ナシ、王黼ヲ竄シ、李  
彥ニ死ヲ賜ヒ、朱勔ヲ放ツ、盜途ニ黼ヲ殺シ、太  
上皇出奔ス、金ノ幹離不京師ヲ圍ム、李綱力戰シテ  
之ヲ禦ク、金人來リテ和ヲ議ス、李綱堅ク争フモ

納レス、詔レテ内帑ヲ出タシ、及士民ノ金帛ヲ拈  
借レテ之ニ與フ、康王及張邦昌ヲ遣リテ質トス、  
後康王還ル、种師道師ヲ帥井テ入リテ援ク、姚平  
肅王往々、仲金ノ營ヲ襲テ敗ル、李綱之ヲ救フ、神臂弓ヲ以  
テ金ノ兵ヲ却ク、幹離不我誓ニ違ヒ兵ヲ用井ル  
ヲ責ム、李邦彥朝廷ノ意ニ非サルヲ以テ、李綱ヲ  
罷メテ金ニ謝ス、太學生陳東及軍民等綱ヲ復セ  
ント乞フ乃綱ヲ尚書右丞京城防禦使トス、幹離  
不我力備アルヲ知テ、兵ヲ引テ北去ス、种師道追  
撃セシト請フ、許サス、師道曰ク、異日必國患ヲ生

ヒシ、粘没喝隆德府ヲ陷レ、太原ヲ圍ム、种師道ニ  
詔レテ滑州ニ屯ス、姚古种師中三鎮ヲ援ク、古隆  
德府威勝軍ヲ復ス、師中幹離不ヲ追テ、北鄙ニ至  
テ還ル、李綱ニ詔レテ太上皇ヲ迎フ、金兵退クヨ  
リ京師恬然トレテ、復邊事ヲ問ハス、李綱獨憂ヒテ  
屢上言ス、耿南仲之ヲ沮ム、太原圍急ナルニ方リ  
テ綱ヲ宣撫使トス、既ニレテ復之ヲ罷ム、蔡京ヲ  
竄ス、道ニ死ス、童貫趙良嗣蔡攸朱勔伏誅ス、金ノ  
粘没喝幹離不道ヲ分チテ入寇ス、我師潰ユ、金人  
遂ニ河ヲ渡テ西京ヲ陷ル、王雲ニ詔レ、康王ニ副

トレテ金ノ軍ニ使シ、三鎮中山太割クテ許ス  
金主ヲ尊テ皇叔トス王磁州ニ至ル、守臣宗澤迎  
謁シテ曰ク、肅王一タヒ去テ返ラス、王願ハクハ  
行クコト勿レ民亦道ヲ遮テ王ヲ止ム雲ヲ指テ  
曰ク、真ノ姦賊ナリト、執ヘテ之ヲ殺ス、王還テ相州  
ニ次ル、幹離不ノ使來リテ割地ヲ議ス耿南仲、聶  
昌ヲ遣リテ使トス、昌行テ道ニ殺サル、南仲遂ニ  
相州ニ奔ル、康王ニ諭シテ入リテ京城ヲ衛ラシ  
ム、幹離不粘沒喝京城ヲ圍ム、城陷ル、帝慟哭シテ  
曰ク、种師道ノ言ヲ用井ス、テ此ニ至レリト、遂

ニ金ノ營ニ如キテ降ヲ請フ、兵馬大元帥構康王師  
ヲ帥井テ東平ニ次ル、二年高宗建炎元年、金天會五年、帝金  
ノ營ヨリ還ル面ヲ掩フテ大哭シテ曰ク、宰相我父  
子ヲ誤ル、詔シテ兩河ノ地ヲ割テ金ニ界ス、民堅  
守レテ詔ヲ奉セス、帝太子ヲ監國トシ復金ニ如  
ク、副元帥宗澤金人ヲ衛州ニ敗ル、澤孤軍ヲ以テ  
進ム、前後皆敵壘ナリ、澤士卒ニ令シ必死ヲ知ラ  
シム、一百ニ當ラサルナシ、金人大敗ス、金上皇及  
后妃太子宗戚ヲ劫シテ其軍ニ至リ、帝及上皇ヲ  
廢シテ庶人トシ、通テ衣ヲ易ス、侍郎李若水帝ヲ

抱テ哭レ、賊ヲ罵テ絶エス、遂ニ殺サル、金張邦昌  
ヲ立テ、楚帝トス、二帝及后妃太子宗戚ヲ以テ北  
去ス、康王皇帝ノ位ニ南京ニ即ク、王應天ニ至ル  
張邦昌來リ見エ、地ニ伏シ慟哭レテ死ヲ請フ、李  
綱ヲ名レテ尚書右僕射兼中書侍郎トス、靖康ノ  
大臣國ヲ誤ルノ罪ヲ論レテ、李邦彥吳敏耿南仲  
等ヲ竄ス、簽書樞密院事張叔夜北遷シ、粟ヲ食ハ  
ス、吭ヲ扼レテ死ス、李綱上陳ス、河東河北ヲ料理  
スルハ當ニ急ニスヘレ、兩河ヲ棄ルニ忍ヒサル  
意ヲ宣諭セシ、宗澤ヲ東京留守トシ、秉義郎岳飛

法ヲ犯レテ刑セラレントス、澤一見レテ之ヲ奇  
トス、功ヲ立テ罪ヲ贖ハシム、飛大ニ金人ヲ敗ル、  
澤曰ク、爾智勇材藝古ノ良將モ過ルコト能ハス  
ト、飛ニ陣圖ヲ授ク、飛曰ク、陣レテ戰フハ兵家ノ  
常運用ノ妙ハ一心ニ存ス、詔レテ東南ニ幸シ、敵  
ヲ避ケント欲人李綱其不可ヲ極言シ、南陽ニ幸セ  
ント請フ、乃范知處ヲ知鄧州トシ、城地宮室ヲ修  
繕ス、而ルニ汪伯彥黃潛善陰ニ揚州ヲ主議ス、綱  
歎シテ曰ク、國ノ存亡是ニ於テ分ル、吾去就ヲ以  
テ之ヲ爭フヘシ、侍御史張浚綱カ馬ヲ買ヒ軍ヲ

招クヲ効ス、黃汪等復綱ヲ力排フ、遂ニ綱ヲ罷メ、  
綱罷メラレテ招撫經制司モ亦廢シ、車駕遂ニ東  
幸ス、綱力規畫スル軍民ノ政一切廢罷シ、金兵益  
熾ニ盜賊蠭起ス、河北西京皆陷リ、帝揚州ニ幸ス、  
高宗皇帝諱ハ構、徽宗第九子建炎二年金ノ兀朮東京  
ヲ犯ス、宗澤之ヲ敗ル、虜常ニ澤ノ威聲ヲ憚リ、南  
人ト言ヘハ必宗爺々ト曰フ、澤帝ノ還京ヲ請フニ  
十餘奏、毎ニ黃潛善汪伯彥ニ抑ヘラル、憂憤シテ病  
ヲ成ス、終ニ臨テ一語ノ家事ニ及フコトナシ、但  
河ヲ過クト連呼スルニタヒニシテ卒ス、三年、

劉光世ノ兵潰走ス、金ノ粘沒喝遂ニ天長軍ヲ陷  
ル、帝鎮江ニ奔ル、汪黃ニ相倉皇戎服シテ南走ス  
帝遂ニ杭州ニ如ク、呂頤浩鎮江ヲ守ル、潛善伯彥  
罪ヲ以テ免ス、朱勝非相タリ、張浚ヲ平江ニ駐ス、  
扈從統制苗傅劉正彥等亂ヲ作シ、帝ヲ劫シテ位  
ヲ魏國公專ニ傳ヘ、隆祐天祐ノ改号太后ニ請テ朝ニ  
臨マシム、張浚呂頤浩劉光世韓世忠等兵ヲ會シ、  
賊ヲ討ス、世忠二兇ヲ獲テ行在ニ送リテ之ヲ斬  
ル、帝江寧ニ如ク、改テ建康ト曰ス張浚ヲ川陝宣撫使ト  
ス、浚恢復ヲ圖ルハ川陝ニ在ルヲ陳シ、請テ自行

金ノ兀朮大舉シテ入寇ス帝臨安ニ如ク金人  
南京ヲ陷ル帝復越州ニ如ク兀朮江ヲ渡テ建康  
ニ入ル杜充救テ金ニ降ル通判楊邦又屈セス衣  
裾ニ血書シテ曰ク寧趙氏ノ鬼トナルモ他邦ノ  
臣トナラスト首ヲ柱礎ニ觸レテ大罵シテ殺サル  
兀朮長驅シテ臨安ヲ陷レ兵ノ遣リテ浙ヲ渡ル  
帝海ニ航ス江淮統制岳飛建康ヨリ金人ヲ躡ム  
六戰シテ皆捷ツ金兵相謂テ曰ク此岳爺々ノ軍  
ナリト爭テ降附ス四年金人明州ヲ陷ル遂ニ  
帝ヲ海ニ襲ス帝温州ニ走ル兀朮引テ北還ス帝

越州ニ還ル韓世忠兀朮ヲ江中ニ邀撃ス兀朮大  
ニ窘メラレ建康ニ走ル世忠海舟ヲ以テ風ニ乘  
シ兀朮ヲ追ス木火箭ヲ以テ風ナキヲ候ヒ世忠  
ヲ襲ス世忠敗績ス朮遂ニ江ヲ濟ル世忠八千人  
ヲ以テ朮カ十萬ノ衆ヲ拒久凡四十八日ニシテ  
敗ル然レトモ金人は是ヨリ敢テ復江ヲ渡ラス此  
役ヤ世忠兵ヲ金山ノ龍王廟ニ伏セテ幾朮ヲ獲  
タリ金二帝ヲ五國城ニ徙シ劉豫ヲ立テ齊王  
トス金人秦檜ヲ縱チ還ス慥懶ノ南侵スルヤ檜  
其ノ參謀タリ自逃レ歸ルト言フモ朝士皆之ヲ



疑之擄云フ天下無事ナルヲ欲セハ南ハ自南北  
ハ自北ニスヘシト皆慥懶ノ意ナリ金人陝西ヲ  
侵ス張浚六路ノ兵ヲ合シ富平ニ戰テ大敗ス  
紹興元年張浚岳飛江淮ノ盜李成ヲ討シ大ニ之  
ヲ破ル群盜皆遁ル秦檜ヲ尚書右僕射同平章事  
トシ兀朮和尚原ニ寇ス吳玠其弟璘ト大ニ之ヲ  
敗ル兀朮流矢ニ中リ僅ニ免ル二年帝臨安ニ  
如ク劉豫汴ニ徙ル秦檜免ス呂頤浩御史ニ諷シ  
檜カ和議ヲ主トシ國ヲ誤ルヲ劾ス因テ其ノ罪ヲ  
朝堂ニ榜ス三年金ノ撒離曷金州ヲ陷ル劉子

羽吳玠ヲ召シテ入ヲ豫擒ケシ玠饒風關至テ敵  
ヲ扼ス敵間道ヨリ繞リテ我後ニ出ル諸軍潰ス  
撒離曷遂ニ興元ニ入ル子羽玠還リ擊テ之ヲ破  
ル四年岳飛ヲ荆南制置使トス飛江ヲ渡リ中  
流ニシテ幕屬ヲ顧テ曰ク飛賊ヲ擒セスハ此江  
ヲ涉ラスト月ヲ踰エテ六郡ヲ復シ襄漢悉ク平  
ク趙鼎ヲ川陝都督トス會邊報驟ニ至ル帝鼎ニ  
謂テ曰ク卿豈遠ク去ル可ケンヤト遂ニ相トシ韓  
世忠大ニ金人ヲ大儀ニ敗ル撻不野等二百餘人  
ヲ擒ス張浚ヲ知樞密院事トシ師ヲ江上ニ視ル

金ノ捷懶元末韓世忠ニ扼セラレ且浚ノ鎮江ニ  
在ルヲ聞テ淮ヨリ引キ還ル五年金主呉乞買  
卒ス兄ノ孫亶立ツ岳飛大ニ楊太ヲ洞庭ニ破ル  
太死ス六年帝平江ニ如ク秦檜ヲ行營留守ト  
ス岳飛劉豫ノ衆ヲ唐州ニ敗ル上疏シテ中原ヲ  
恢復セント請ス許サス楊沂中大ニ劉猺ヲ藕塘  
ニ敗リ劉麟ヲ追テ壽春ニ至テ還ル七年何薜  
金ヨリ還ル始テ上皇太后ノ喪ヲ聞ク上皇五年崩ス  
主倫ヲ奉迎梓宮使トシ金ニ如ク帝建康ニ如ク  
岳飛太尉ヨリ宣撫使トナル帝ヲ見テ數恢復

略ヲ論ス帝曰ク中興ノ事一ニ卿ニ委ス秦檜  
之ヲ忌ム且張浚ト事ヲ議シ浚ニ忤フ上章シテ  
廬山ニ還ル未幾ナラス累詔シテ飛ヲ趣カシ還  
職ス八年秦檜相タリ王倫復金ニ如キ和議ヲ  
定ム同平章事趙鼎參知政事劉大中和議ヲ主ト  
セス秦檜忌テ大中ヲ罷ム鼎疾ヲ引テ罷ノラハ樞  
密院編修胡銓ヲ貶ス銓上疏シテ金虜和スヘカラ  
ス王倫秦檜孫近ノ頭ヲ斬リテ然シテ後問罪ノ  
師ヲ興サント言ス廣州ニ貶セラル九年王倫  
復金ニ如ク金ノ和議實ニ捷懶之ヲ主トス倫行

テ中山ニ至ル會捷懶等反レテ誅セラル金人倫  
ヲ執ス十年觀文殿大學士隴西公李綱卒ス綱  
天下ノ望ヲ負ヒ一身ノ用舍ヲ以テ社稷生民ノ  
安危ヲ爲ス使者金ニ至レハ金人必李綱趙鼎ヲ  
問フ遠人畏服スルコト此ノ如シ金ノ兀朮撒離  
喝道ヲ分チテ入寇ス河南陝西復陷ル吳璘金人  
ヲ扶風ニ敗リ其城ヲ復ス金ノ兵順昌ヲ圍ム東  
京留守劉錡壯士ヲ募テ夜其營ヲ斫ル敵衆大ニ  
亂レ退久兀朮怒テ大衆ヲ帥井テ來援ス錡豫賴  
ノ上流及艸木ニ毒シテ是ヲ埃以時大暑敵

人馬飢渴ス水艸ヲ食テ輒病々錡出テ戰ス敵大  
敗ス兀朮遂ニ汴ニ還ル岳飛兵ヲ遣リテ金人ヲ  
京西ニ敗ル時ニ秦檜和議ヲ主トス奏シテ飛ノ  
師ヲ班ス岳飛金ノ兀朮ヲ郢城ニ走ラス追テ朱  
仙鎮ニ至天大ニ之ヲ破ル西河ノ豪傑既ニ飛ニ  
率服シ燕ヨリ以南金ノ號令行ハレス兀朮嘆シ  
テ曰ク我未今日ノ如キ挫衄ハアラスト秦檜臺  
臣ニ諷シテ飛ノ師ヲ班ス飛還ル河南復金ニ陷  
ル十一年金皇統元年金ノ兀朮壽春ヲ陷ル楊沂中  
劉錡之ヲ柘皋ニ敗リ遂ニ廬州ヲ復ス兀朮淮ヲ

渡テ北去ス韓世忠張浚ヲ樞密使トシ岳飛ヲ副  
使トス秦檜其兵柄ヲ解カント欲スレハナリ淮  
北宣撫判官劉錡ヲ罷シ岳飛恢復ヲ已カ任トス  
秦檜謂フ飛死セサレハ終ニ和議ヲ梗シ已必禍  
ニ及ハント力テ飛ヲ殺スヲ謀シ檜詔ヲ矯テ飛  
ヲ大理ノ獄ニ下ス部將張憲及飛ノ子雲皆獄ニ  
就ク何鑄之ヲ鞠ス飛裳ヲ裂テ背ヲ示セハ盡忠  
報國ノ四大字舊涅シ膚理ニ深入ス鑄其冤ヲ檜  
ニ白ス檜改テ万俟卨ニ命シテ其獄ヲ付會シ遂  
ニ之ヲ殺シ韓世忠罷メラル世忠數和議ノ非ヲ

論ス是ニ至テ門ヲ杜チテ客ヲ謝シ口兵ヲ言ハ  
ス西湖ニ縱遊シ家ニ卧スコト凡十年ニシテ卒  
ス和議成ル表ヲ金ニ奉シテ臣ト稱シ唐鄧高秦  
ノ地ヲ割テ之ニ畀ス十二年金人徽宗及鄭后  
ノ喪ヲ歸ス皇太后韋氏金ヨリ至ル十五年張  
浚ヲ連州ニ放ツ十七年故相趙鼎吉陽軍ニ卒  
ス鼎吉陽ニ徙サルヨリ潛居深處ス秦檜ノ必  
己ヲ殺サントスルヲ知テ遂ニ食ハスレテ死ス  
十八年金ノ兀朮卒ス十九年金廢主亮金ノ  
完顏亮其主亶ヲ弑シテ自立ス天德元年金ノ

年、金燕ニ遷都ス、二十五年、秦檜ダス、殺サレタル  
コト十九年、和ヲ倡ヘ國ヲ誤リ、一時ノ忠良誅鋤  
シ略盡ク、晚年殘忍尤甚シ、二十八年、金汴宮ヲ  
營ム、二十九年、金諸兵ヲ籍レ戰具ヲ造ル、孫道  
夫金ニ使シテ還リ、其南侵セントスルヲ奏ス、綿  
州ニ貶セラル、三十一年、金世宗、大定元年、金主亮ノ使  
來テ漢淮ノ地ヲ求ム、始テ靖康帝ノ喪ヲ聞ク、二十  
六年、金主汴ニ遷都シ、大舉シテ入寇ス、遠近大ニ  
震ス、金人黄牛堡ヲ攻ム、四川、宣撫使吳玠等之ヲ  
敗リ、遂ニ秦隴、岷三州ノ復ス、金ノ東京ノ留守烏

祿性仁孝ナリ、國人之ニ歸ス、金主亮カ其母ヲ弑  
シ且宗室兄弟ヲ害セントスト言フ者アルヲ聞  
キ遂ニ即位シ、詔シテ亮ノ罪ヲ暴揚ス、張浚ヲ召  
シテ判建康府トス、金主采石ニ臨ム、參謀軍事虞  
允文采石ニ至ル、敵騎充斥シ、官軍星散ス、允文孤  
軍ヲ以テ衆ヲ勵シ督戰シテ大ニ金ノ軍ヲ敗ル、  
金主揚州ニ趨ク時ニ劉琦疾ム、允文之ヲ問フ、錡  
其手ヲ執リテ曰ク、朝廷兵ヲ養フ三十年、一技施  
サス而レテ大功乃一儒生ニ出ツ、我輩愧死ス、  
金主亮其下ニ殺サル、帝建康ニ如ク、張浚道左ニ

迎拜ス、軍民皆泣ニ倚重ス、金主雍即烏祿燕ニ入ル  
三十二年、金主雍令ヲ下シ、南征ノ衆ヲ撤シ、使  
ヲ遣ハシテ來聘ス、帝位ヲ太子ニ傳フ、太子即位  
ス、中外ニ詔シテ、時政ノ得失ヲ言ハレム、監南嶽  
廟朱熹封事ヲ上リ、帝王ノ學ハ誠意正心ニ在ル  
ヲ言ヒ、次ニ修攘ノ計ヲ定ム、言フ、張浚ヲ江淮  
宣撫使トス、岳飛ノ官ヲ追復シ、禮ヲ以テ改葬ス、  
史浩ヲ參知政事トス、浩陝西ヲ棄テント欲ス、故ニ  
宣撫使虞允文ヲ罷メ、吳璘ニ詔シテ師ヲ班ヌ、新  
復ノ十三州復金ニ入ル、孝宗皇帝諱ハ昀、太祖六世ノ孫、

王解隆興元年、張浚ヲ都督江淮軍馬トス、李顯忠  
靈壁ヲ復ス、遂ニ邵安淵ニ會シ、虹縣ヲ復ス、金ノ  
將士多降ル、張浚江ヲ渡ル、李顯忠大ニ金人ヲ敗  
テ宿州ヲ復ス、顯忠安淵相能カラス、顯忠進マン  
ト欲ス、安淵動カス、顯忠遂ニ引テ還ル、符離ニ至  
テ師大潰ス、二年、張浚師ヲ江淮ニ視ル、金ノ軍  
之ヲ聞テ退ク、浚國ヲ去ルコト二十年、天下傾慕  
セサルハナレ、是秋卒ス、金兵復淮ヲ渡ル、魏勝淮  
陽ニ拒戰シテ之ニ死ス、楚州陷ル、湯思退和ヲ議  
シ、國ヲ誤ルノ罪ヲ以テ永州ニ竄セラル、乾道

元年、魏杞金ヨリ還ル、始テ敵國ノ禮ヲ正ス、國書  
ト稱スルコト以テ、金大ノ字ヲ去ラ、ム、杞之ヲ拒  
ム、金主歲幣ヲ損シ歸正ノ人ヲ發セサルヲ許ス  
三年、四川宣撫使吳玠卒ス、玠蜀ヲ守ルコト二  
十年、隱然トシテ方面ノ重ヲ爲ス、五年、陳俊卿  
虞允文ヲ尚書左右僕射トス、俊卿人ヲ用非ルヲ  
己カ任トス、允文モ亦人才ヲ以テ急トス、淳熙  
三年、朱熹ヲ召テ秘書郎トス、至ラス、復知南康軍  
トス、再辭スレトモ許サス、南康ニ至ル、歲雨ヲサ  
ルニ値ス、荒政ヲ講求シ、全活スル所多シ、唐ノ李  
渤カ白鹿洞書院ノ遺址ヲ訪テ、奏シテ其舊ニ復

シ、學規ヲ爲リテ之ヲ守フシム、十六年、金主雍  
卒ス、世宗ト追號ス、雍金ノ諸帝中取賢ナリ、國人  
小堯舜ト號ス、帝位ヲ太子ニ傳ス、太子卽位ス、  
光宗皇帝諱ハ淳、孝宗第三子紹熙二年、金章宗明昌二年郊ス、大  
風雨アリ、事ヲ卒ヘスレテ還ル、初、帝宦官ヲ誅セ  
ント欲ス、近習懼レ遂ニ謀リテ三宮帝后壽皇ヲ離間  
ス、后妬婢ナリ、嘉王ヲ太子トセント請テ許サレ  
サルニ因テ壽皇上皇ヲ銜シ、其廢立ノ意アルヲ  
誣罔ス、帝驚恐シテ疑疾ヲ得、又此變ニ値ヒ、震懼  
シテ疾ヲ増ス、復重華宮ニ朝セス、五年、壽皇疾

アリ、群臣疾ヲ朝華宮ニ問ハンコトヲ請フ、從ハス、  
大漸ニ及ヒ群臣奏シテ嘉王ヲシテ疾ヲ問ハシ  
ム、壽皇崩ス、帝疾ト稱シテ出テス、丞相留正等壽  
聖太后ニ請フテ、代リテ喪事ヲ行ハシム、太后ヲ  
尊テ太皇太后トス、留正帝ノ疾ミテ喪ヲ執ラサ  
ルヲ以テ、太子ヲ建テント請フ、許サス、正遂ニ疾ト  
稱シ、逃レ去ル、太皇太后嘉王擴ニ詔シ、服ヲ成シ  
即位セシム、帝ヲ尊テ太上皇トス、留正既ニ去テ  
人心益搖久、趙汝愚憂危ス、内禪ノ議益決ス、汝愚  
遂ニ太皇ノ旨ヲ皇子ニ喻ス、皇子重華殿ニ就テ

位ニ登リ、禪祭ノ禮ヲ行フ中外晏然タリ、初汝愚  
知閣門韓侂胄ト内禪ヲ議シ、侂胄ヲシテ太后ニ  
白サシム、侂胄ハ太后ノ女弟ノ子ナリ、是ニ於テ侂  
胄定策ノ功ヲ推サント欲ス、汝愚之ヲ拒ム然レ  
トモ詔旨ヲ傳道スルヲ以テ浸親幸セラレ、威福  
ヲ竊弄ス、人其國患ヲ爲スヲ知ル、朱熹ヲ煥章閣  
待制兼侍講トス、熹進講スル毎ニ敷陳開折、登蜀  
シテ隱スコトナク、上疏シテ韓侂胄ニ忤フ、遂ニ  
罷ラル、侂胄ノ黨目スルニ偽學ヲ以テシ、朝廷  
ノ正士ハ排斥シテ遺スモノナク、寧宗皇帝



續光宗、慶元元年右丞相趙汝愚ヲ罷ス、侂冑必  
之ヲ死ニ置カント欲ス、遂ニ永州ニ竄ス、道ニ暴卒  
ス、六年、故秘書閣修撰朱熹卒ス、時ニ偽學ノ禁嚴  
ナリト雖、會葬スル者數千人ト云、太上皇崩ス、  
嘉泰四年、金蒙古ノ禍アリテ、國勢日ニ弱シ、韓  
侂冑謂フ、此釁ニ乗セハ中原圖ルヘシト、遂ニ謀  
リテ金ヲ伐ツ、開禧元年、韓侂冑ヲ平章軍國事  
トス、二年、詔ヲ下シ、金ヲ伐ツ、郭倪宿州ヲ攻テ  
大敗ス、皇甫斌唐州ニ敗績シ、金ノ僕散揆兵ヲ分  
テ入寇シ、眞州ヲ陷ル、韓侂冑師出テ屢敗ル、ヲ

以テ使ヲ遣リテ和ヲ議ス、蒙古ノ奇渚溫鉢水眞  
帝ヲ幹難河ニ稱ス、是ヲ元ノ太祖トス、三年、方  
信孺ヲ金ニ使ス、金人五事ヲ以テ要ス、信孺屈セ  
スレテ還ル、信孺侂冑ニ言フ、敵ノ欲スル所ハ五  
事ナリト、第四事ニ言ヒ及ス、五ハ敢テ言ハス、侂  
冑固ク問フ、信孺徐ニ曰ク、太師ノ頭ヲ得ント欲  
スルノミ、侂冑大ニ怒リテ、信孺ノ官ヲ貶シ、禮部  
侍郎史彌遠韓侂冑ヲ玉津園ニ誅ス、詔シテ侂冑  
ノ罪ヲ中外ニ暴ス、侂冑兵ヲ弄フヨリ公私力屈  
ス、彌遠之ヲ誅シテ邦ヲ安セント請ス、楊后之ヲ

贊、帝允可ス、命シテ之ヲ殛殺シ、蘇師且ヲ誅ス、  
 嘉定元年韓侂胄蘇師且ノ首ヲ金ニ與ヘテ講  
 和ス、金主璟卒ス、衛王永濟立ツ、六年金至寧元年宣宗珣  
 真祐金ノ胡沙虎其主永濟ヲ弑シ昇王珣ヲ立ツ、  
 蒙古大ニ金ノ將朮席高琪ヲ懷來ニ敗リ進ミテ  
 燕ヲ圍ム、蒙古兵ヲ分ケテ金ノ河北河東ノ諸州  
 郡ヲ拔ク、七年金蒙古ト平久遂ニ汴ニ遷都ス、  
 蒙古復燕ヲ圍ム、八年金兵ヲ遣リテ燕ヲ救ヒ、  
 霸州ニ大潰ス、蒙古遂ニ燕ニ入ル、十年金入寇  
 ス、詔シテ金ヲ伐ツ、十一年金ノ使來テ和ヲ求

ム、納レス、十二年金人復大舉シテ襄陽ヲ圍ム、  
 孟宗政扈再興合擊シテ大ニ金人ヲ襄陽ニ敗リ  
 其衆三萬ヲ殺ス、金人はヨリ敢テ襄陽襄陽ヲ窺  
 ハス、宗政ノ威境外ニ振ス、十四年沂王ノ嗣子  
 貴和ヲ立テ、皇子トシ宗室貴誠ヲ立テ、沂王  
 ノ後トス、十五年金元光元年子珣ヲ進封シテ濟國  
 公トス、和貴誠ヲ邵州防禦使トス、時ニ楊后政  
 ヲ專ニシ、史彌遠權勢熏灼ス、珣心不平ナリ、彌遠  
 ヲ遠州ニ置カント期ス、彌遠聞テ大ニ懼ヒ、日ニ珣  
 ノ失ヲ媒孽ス、十六年金主珣卒ス、子守緒立リ

十七年金哀帝中緒正大元年帝崩ス史彌遠詔ヲ矯テ沂

王ノ子貴誠ヲ立以名ヲ昀ト更ハ皇子竑ヲ濟王

トシ出タレテ湖州ニ居ラシム理宗皇帝諱ハ

祖十世ノ孫榮王希璠ノ子寶慶元年湖州ノ潘士兵ヲ起シ濟

王竑ヲ立テシコトヲ謀ル竑朝ニ告テ州兵ヲ帥井

テ之ヲ討平ス史彌遠竑ヲ忌ミ詔ヲ矯テ竑ヲ殺

人彌遠濟王ノ事ヲ論スル者衆キヲ患フ梁成大

等其鷹犬トナリ名人賢士ヲ擊排ス真德秀洪咨

夔魏了翁皆罷メラル二年蒙古夏ニ入ル夏主德

旺憂悸シテ卒ハ弟ノ子覲立ツ明年夏三年蒙

古ノ鐵木真死ス少子拖雷監國ス紹定二年蒙古

太宗有孫滿窩闊台死テ蒙古太祖ノ遺詔ヲ以テ窩闊台ヲ立

ツ四年趙范趙葵青州ノ反寇李全ヲ敗テ淮安

ヲ收復ス蒙古金ヲ侵サントシテ道ヲ假ル我其

使ヲ殺ス五年金天興元年蒙古ノ窩闊台白坡ヨリ

河ヲ渡リテ鄭州ニ次ル其將速不臺金ノ汴京ヲ

圍ム金ノ完顏合達移剌蒲阿軍ヲ引テ汴ヲ援グ

蒙古ノ拖雷ト三峰ニ戰テ大敗ス忠孝軍總領完

顏陳和尚之ニ死ス金ノ健將銳卒俱ニ盡ク金主其

弟訛可ヲ蒙古ニ質トシテ和ヲ請フ蒙古軍ヲ退

久、金復蒙古ノ使ヲ殺ス、蒙古復汴ヲ圍ム、六年、  
金主守緒河ヲ渡リテ歸德ニ走ル、金ノ汴京西面  
元帥崔立亂ヲ作シ、城ヲ以テ蒙古ニ降ル、金主守  
緒蔡州ニ走ル、端平元年、金主守緒位ヲ其宗室  
承麟ニ傳フ、孟珙蒙古ノ兵ヲ以テ蔡州ニ入ル、守  
緒及尚書右丞完顏忽斜虎之ニ死ス、承麟亂兵ニ  
殺サル、金亡、趙范趙葵三京ヲ復セシト請フ、金  
子才ニ詔シテ淮西ノ兵ヲ合セ汴ニ赴ク、金ノ故  
將李伯淵等崔立ヲ誅シテ降ル、既ニシテ蒙古兵  
ヲ引テ洛陽ニ至ル、葵子才ト遂ニ汴ヲ棄テ、歸

ル、三年、蒙古棗陽軍德安府ヲ陷ル、初、蒙古許州  
ヲ破リテ姚樞ヲ獲、又德安ヲ拔キテ趙復ヲ獲タ  
リ、復儒學ヲ以テ世ニ重セラル、是ヨリ北方始テ  
經ヲ學フヲ知ル、樞モ亦程朱性理ノ書ヲ觀ルヲ  
得タリ、淳祐元年、蒙古主窩闊台卒ス、旨アリ孫  
失烈門ヲ嗣トス、后第六后乃馬真氏從ハス、遂ニ和林ニ  
制ヲ稱ス、二年、蒙古ノ燕京行省郎中姚樞官ヲ  
棄テ、蘇門ニ隱ベ、牙刺瓦赤燕ニ在リ、惟貸賂ヲ  
事トス、樞ヲ幕長トシ之ヲ分及ス、樞一切拒絶シ、  
官ヲ辭シテ去ル、三年、余玠ヲ四川ノ制置使ト

ス時ニ蜀地殘破ス玠至テ大ニ弊政ヲ更メ其ノ  
屯レ糧ヲ聚メ必守ノ計ヲ爲ス蜀民始テ安土ノ  
心アリ蒙古ノ耶律楚材卒ス乃馬真氏制ヲ稱シ  
奧都刺合蠻政ヲ專ニシ事ヲ用非ルヲ憤リ疾ヲ  
ナレテ卒ス楚材相トナリ毎ニ生民ノ休戚ノ陳  
ス辭色懇切ナリ太宗曰ク汝又百姓ノ爲ニ哭セ  
ント欲スハ々楚材毎ニ言フ一利ヲ興スハ一害  
ヲ除クニ如カス一事ヲ生スレハ一事ヲ減スル  
ニ如カスト人以テ名言トシ余玠釣魚山ニ城キ  
徙テ之ニ治ス釣魚山ハ蜀口形勝ノ地ナリ六

年蒙古足宗蒙古主貴由立リ窩闊台ノ子ナリ  
八年蒙古主貴由卒ス后幹兀立海迷失制ヲ稱ス  
十一年蒙古憲宗蒙古主蒙哥立リ拖雷ノ長子  
ナリ寶祐元年余玠ヲ召レ還ス人アリ玠ニ求  
メテ得ス遂ニ玠ヲ譖ス帝之ニ惑ヒ召レ還ス玠  
自安ンセス藥ヲ仰キテ卒ス蜀人悲マサルハナ  
レ三年蒙古ノ忽必烈許衡ヲ徵レテ京兆提學  
トス衡効ニレテ俊偉ナリ姚樞ニ從テ學ス大ニ  
得ル所アリ嘗テ曰ク綱常ハ一日モ天下ニ亡カ  
ルヘカラス上ニ在ル者之ニ任ヤスハ下ニ在ル

者ノ任ナリ、五年、蒙古主道ヲ分チテ入寇ス、合州城下ニ卒ス、開慶元年、蒙古ノ忽必烈兵ヲ將井テ江淮ヲ渡リ、鄂州ヲ圍ム、賈似道ヲ右丞相兼樞密使トシ、漢陽ニ軍レテ鄂ヲ援ク、似道蒙古ニ和ヲ乞フ、忽必烈許サス、會、蒙古主ノ計ヲ聞テ引去還ル、鄂州圍解ク、景定元年、蒙古世祖忽必烈中統元年、賈似道諸路ノ大捷ヲ奏ス、和ヲ乞ヒ臣ト稱スル事ヲ匿ス、帝之ヲ信シ、賞賚甚厚シ、蒙古ノ忽必烈立リ、憲宗ノ同母弟ナリ、蒙古學士郝經ヲシテ來リテ好ヲ求メシム、賈似道經至リ、已和ヲ乞フ事ノ泄レ

シコトヲ恐レテ之ヲ真州ニ幽ス、四年、權場ヲ樊城ニ置ク、呂文德蒙古ノ請ニ從テ之ヲ置ク、外ハ互市ヲ通シ、内ハ堡ヲ築ク、蒙古又第二堡ヲ白鶴ニ築ク、文德始テ賣ラル、ヲ悟リ、自咎メテ曰ク、國家ヲ誤ル者ハ我ナリト、因テ病テ卒ス、五年、蒙古至元元年、蒙古入テ燕ニ都ス、帝崩ス、太子禩即位ス、度宗皇帝、諱ハ禩、梁王與芮ノ子、理宗子ナリ、之ヲ立リ、咸淳元年、賈似道ニ太師ヲ加フ、帝稱シテ師臣ト曰フ、朝臣皆稱シテ周公トス、似道君ヲ要レテ去ルヲ求ム、帝手詔シテ之ヲ起コス、三年、蒙古ノ許衡病テ還

ル、安童ヲ右丞相トス、賈似道第ヲ西湖ノ葛嶺ニ  
賜ハリ、樓臺亭榭ヲ起シ、日ニ淫樂ヲ肆ニス、邊事  
ヲ言フ者アレハ輒貶斥セララル、一日帝問フ、襄陽  
ノ圍已ニ三年奈何セシ、似道對テ曰ク、北兵已ニ  
退ク何人カ之ヲ言フ帝曰ク、女嬪之ヲ言フ、似道  
其人ヲ誣殺ス、是ニ由テ邊事ヲ言フ者ナシ、七  
年蒙古道ヲ分ナテ嘉定諸路ニ寇ス、是歲蒙古國  
告ヲ元ト改ム  
九年樊城陷ル、守將范天順牛富之ニ死ス、  
十年帝崩ス、子嘉國公焮即位ス、太后謝氏朝ニ臨  
詔ヲ稱ス、帝年四歲、太后  
理宗ノ后元ノ史天澤伯顏大舉

シテ入寇ス、元主之ニ命レテ曰ク、古ノ善ク江南  
ヲ取ル者ハ曹彬一人ノミ、汝不殺ヲ能クセハ我  
曹彬ナリ、陸秀夫ヲ參議准東制置司事トス、李庭  
芝之ヲ辟レテ幕下ニ置ク、元ノ伯顏陽邏堡ヲ拔ク、  
夏貴師ヲ棄テ、走り還ル、伯顏遂ニ阿朮ニ會シ、  
鄂州ヲ下シ、兵ヲ引テ東下ス、朝廷大ニ懼レ、賈似  
道ニ詔レテ諸路ノ軍馬ヲ督セシム、是ニ於テ似  
道始テ府ヲ臨安ニ開ク、恭宗皇帝諱ハ焮、度宗  
ノ次子、德  
祐元年呂師夔江州ヲ以テ元ニ降ル、師夔宗室ノ  
女二人ヲ盛飾レテ伯顏ニ獻ス、伯顏怒リテ曰ク、

吾天子ノ命ヲ奉レテ教師ヲ興ス、女色以テ我ヲ  
移サントスルカ、賈似道敵ニ劉整アルヲ畏レテ敢  
テ發セス、其死スルヲ聞テ、乃出テ、蕪湖ニ次ル、  
夏貴兵ヲ引テ之ニ會ス、汪二信書ヲ似道ニ與ヘ  
テ曰ク、今天下ノ勢十二八九ハ去ル、而ルニ君臣  
宴安酣歌シ湖山ニ嘯傲ス、折衝亦難カラスヤ、似  
道書ヲ地ニ抵テ曰ク、瞎賊敢テ爾ル、立信微孫虎  
臣夏貴ノ師江上ニ潰ス、賈似道揚州ニ奔ル、元盡  
ク江淮ヲ陷シ、張世傑兵ヲ將升テ入衛ス、遂ニ饒  
州ヲ復ス、先ニ饒州陷ル唐震江西提刑文天祥兵

ヲ起シテ勸王ス、湖南提刑李芾兵ヲ遣リテ入援  
ス、賈似道罪アリテ免ス、陳宜中本似道ニ附ス、是  
ニ至リ似道ヲ劾シテ自解シ、江淮招討使汪立信  
軍ニ卒ス、立信賈似道カ軍潰ス、守臣皆降遁スト  
聞テ、嘆シテ曰ク、吾今日猶宋土ニ死スルヲ得タ  
リト、賓僚ト置酒シテ訣シ、呪ヲ扼シテ卒ス、賈似  
道ヲ循州ニ放シ、似道既ニ免ス、到ル處納レス、遠  
竄セラル、日、鄭虎臣其父ノ仇ナルヲ以テ監押  
シテ漳州ニ至リ、厠上ニ即キ其胸ヲ拉シテ之ヲ  
殺シ、元ノ伯顏江ヲ渡リ、兵ヲ分チテ東下ス、二



年五月已後端元ノ阿里海潭州ヲ破ル知州事李  
芾之ニ死ス湖南ノ軍皆陷ル吉王昱ヲ進封シテ  
益王トシ信王昺ヲ廣王トス文天祥二王ニ命  
閩廣ニ鎮シテ興復ヲ圖ラント乞フ太后之ニ從  
ズ元ノ伯顔進ミテ皋亭山ニ軍ス文天祥張世傑  
城ニ背テ一戰セント請フ陳宜中許リス太后ニ  
白シ使ヲ遣リテ璽ヲ奉シテ降ル世傑去テ海ニ  
入ル文天祥元ノ軍ニ使ス伯顔之ヲ執ス伯顔人  
ヲ遣リテ臨安ニ入り府庫ヲ封シ圖籍符印ヲ收  
メ益王廣王婺州ニ走ル元ノ范文虎之ヲ追入ニ

王遂ニ温州ニ走ル伯顔臨安ニ入り帝及皇太后  
全氏福王等ヲ以テ北去ス文天祥元ノ軍ヨリ亡  
ケテ海ニ浮ヒ温州ニ入ル帝北行シテ瓜州ニ至  
ル李庭芝姜才ト涕泣シテ將士ニ誓ヒ出テ之ヲ  
奪ハントス夜元ノ軍ヲ擣ツ克クス益王福州ニ  
即位ス遙ニ帝ニ尊號ヲ上ル度宗ノ淑妃楊氏ヲ  
皇太妃トシ同シク政ヲ聽ク左丞相李庭芝保康  
軍承宣使姜才名ニ赴ギ海ニ入りテ泰州ニ至ル  
元ノ阿朮追テ之ヲ圍ム庭芝病テ戰フコト能ハ  
ス裨將門ヲ開キテ降ル庭芝才執ヘラル阿朮皆

之ヲ殺ス元ノ軍道ヲ分ナテ閩廣ニ寇ス陳宜中  
張世傑帝ヲ奉シテ海ニ航シ泉州ニ至ル蒲壽庚  
亂ヲ作ス帝潮州ニ走ル元人興化軍ニ入ル知軍  
陳文龍ヲ降サント欲ス文龍其腹ヲ指シテ曰久此  
皆節義文章ナリ卒ニ屈セスシテ死ス帝惠州ニ  
次ル使ヲ遣リ表ヲ奉シテ降ヲ元ニ請ス端宗  
皇帝諱ハ昀度景炎二年陸秀夫ヲ同簽書樞密院  
事トス時ニ海濱ヲ播越ス庶事疏略ナリ獨秀夫  
儼然トミテ旁ヲ正レクスル治朝ノ如キ或ハ時  
ニ淒然トシテ泣下リ衣盡ク濕ル元ノ將劉深淺

灣ヲ襲フ帝井澳ニ走ル颶風舟ヲ壞ル帝溺レテ  
幾救ハレス遂ニ驚疾ヲ得タリ遂ニ謝女峽ニ  
奔ル三年五月巳後帝帝碭州ニ崩ス年十一衛  
王即廣即位ス年八時ニ張世傑政ヲ秉リ陸秀夫  
之ヲ助ク匆遽流離中ト雖猶日ニ大學章句ヲ書  
シテ勸講ス帝新會ノ厓山ニ遷ル張世傑厓山ハ  
天險ナリトシ帝ヲ奉シテ移駐ス元ノ張弘範文  
天祥ヲ五坡嶺ニ執ス天祥死セント請ス許サス  
禮シテ舟中ニ置ク帝度宗祥興二年元ノ  
張弘範厓山ヲ襲ス張世傑力戰シテ之ヲ禦ク弘

範世傑ノ甥韓ヲ得タリ之ヲシテ世傑ヲ招カシ  
ム、世傑從ハス、弘範又文天祥ヲシテ書ヲ爲リテ  
招カシム天祥曰ク吾父母ヲ扞クコト能ハス乃  
人ニ父母ニ叛クヲ教ヘンヤ張世傑元ノ張弘範  
ト厓山ニ戰フ、兵潰ニ陸秀夫帝ヲ負テ海ニ赴テ  
死ス世傑兵ヲ收メ海陵山ニ至ル舟覆テ死ス宋  
ハ乙、文天祥燕ニ至ル張弘範之ヲ降サント欲ス、  
屈セス元人之ヲ囚フ、

元紀

姓ハ奇溫氏蒙古部ハ人、燕ニ都ス、

世祖皇帝

諱ハ忽必烈、太祖子、拖雷ノ次子、

至元十九年宋ノ少保

樞密使信國公文天祥ヲ殺ス初天祥燕ニ在リ丞相博羅之ヲ詰ルコト數條天祥屈セス遂ニ燕京ノ柴市ニ殺サル刑ニ臨ミ從容トシテ吏卒ニ謂テ曰ク吾事畢ルト南向シ拜シテ死ス二十二年太子真金卒ス太子仁孝恭儉ナリ江西ノ行省歲課ノ羨鈔四十七萬貫ヲ獻ス太子怒テ曰ク朝廷但汝等ニ百姓ヲ安セシム百姓安クハ錢糧何ソ不足ノ患ヘンヤ盡之ヲ却ク時ニ帝春秋高シ御史內禪ヲ請ス太子聞テ憂懼シテ卒ス二十五年徵理司ヲ置キ百司倉庫ノ財穀ヲ鈎考ス又

使ノ遣シ、諸路ノ錢穀ヲ鈎考ス、二十六年、福建  
參知政事魏天祐宋ノ江西招諭使知信州謝枋得  
ヲ執ヘテ燕ニ至ル、枋得病テ憫忠寺ニ遷ル、留夢  
炎藥ヲ米飯ニ雜ヘテ持テ進ソシム、枋得怒テ曰  
ク、吾死ヲ願フ汝乃我ヲ生ケント欲スルカ之ヲ  
此ニ棄テ食ハスシテ死ス、二十八年、桑哥罪ヲ  
以テ免ス、桑哥錢穀ヲ鈎考シ天下騷動ス、趙孟頫  
奉御徹里ニ謂テ桑哥ノ罪惡ヲ帝ニ言ハシム、帝  
漸悟ル、時ニ言者益衆シ、遂ニ臺省ニ詔シ相與ニ  
之ヲ辨駁ス、桑哥辭屈ス、遂ニ官ヲ免シ、其家ヲ藉

ス、珍寶內藏ノ半アリ、尋テ伏誅ス、三十一年、帝  
崩ス、皇孫鐵木耳上都ニ即位ス、成宗皇帝諱ハ  
真金ノ第三子元貞元年、陝西旱饑ス、行省右丞  
許宸命ノ下ルヲ俟タスシテ之ヲ賑ス、命ヒ亦尋  
テ下ル、大德十一年、帝崩ス、右丞相阿忽魯等謀  
テ皇太后奉シテ朝ニ臨ミ、安西王攝政ス、右丞相  
哈刺哈孫懷寧王海山ヲ漠北ニ及弟愛育黎拔力  
八達ヲ懷州ニ迎ス、愛育黎拔力八達至リ、阿忽魯  
等ヲ誅シ、懷寧王上都ニ至リ、皇后伯岳吾氏ヲ廢  
殺シ、安西王阿難答及諸王ヲ誅シ、遂ニ即位ス、愛

育黎拔力八達ヲ立テ皇太子トス、武宗皇帝諱海山、成宗ノ兄、答剌麻八剌ノ長子至大元年、阿沙不花ヲ右丞相トス、阿沙不花嘗テ帝ノ容色日ニ悴スルヲ見テ、色食ヲ節スルヲ請フ、帝悦ヒ因テ酒ヲ進ム、阿沙不花謝シテ曰ク、臣陛下ヲ飲ヲ節スルヲ欲ス而ルニ及リニ之ヲ勸スハ臣カ言陛下ニ信ナラサルナリ、四年、帝崩ス、皇太子即位ス、仁宗皇帝諱愛育黎拔力八達、武宗ノ同母弟、延祐元年、復齊履謙ヲ國子司業トス、履謙吳澄ト俱ニ國學ニアリ、既ニシテ罷メ去ル、學制稍廢ス、是ニ至リテ復司業トス、三年

趙孟頫ヲ翰林學士承旨トス、之ヲ間スル者アリ、帝曰ク、子昂ハ世祖簡拔シテ述作ヲ典ラシム、何ソ歟々センヤ、七年、帝崩ス、太子即位ス、英宗皇帝諱仁宗ノ太子、至治二年、拜住ヲ右丞相トス、佛教天下ヲ治ムハレト言フ者アリ、帝拜住ニ問フ、對テ曰ク、清淨寂滅ハ自治ムルハ可ナリ、天下ヲ治ルニ仁義ヲ捨テハ綱常亂レン、三年、御史大夫鐵失帝ヲ弑ス、初鐵失迭兒奸貪ナルヲ以テ官爵ヲ追奪シ、其家ヲ籍没ス、鐵失ハ奸黨ナリ、自安ニセズ、帝ヲ南坡ニ弑シ、右丞相拜住ヲ殺ス、諸王

按捺不花等、晋王也孫鐵木兒ヲ北邊ヨリ迎フ、王  
龍居河ニ即位ス、鐵失也先帖木兒等伏誅ス、泰  
定皇帝諱ハ也孫鐵木兒、英宗ノ叔、文宗帝ノ為  
定元年、子阿速吉ハヲ皇太子トス、致和元年、  
圖帖睦爾、天祐元年帝上都ニ崩ス、簽樞密院事燕帖木兒謀  
逆シ、中書省御史臺臣烏伯都剌等ヲ執ヘテ獄ニ  
下シ、遂ニ使ヲ遣リテ懷王圖帖睦爾ヲ江陵ニ迎  
フ、皇太子阿速吉ハ上都ニ即位ス、時ニ九年九歲、元  
懷王帝位ヲ襲キ、兵ヲ以テ上都ヲ陷ル、帝終ル所  
ヲ知ラス、周王和世球ヲ漠北ニ迎ス、明宗皇帝

諱ハ和世球武宗ノ長子、天歷二年、周王和世球和寧ノ北ニ帝  
ト稱ス、燕帖木兒ヲ太師トス、周王旺忽察都ニ次  
ル、圖帖睦爾入見ス、王暴卒ス、圖帖睦爾上都ニ襲  
位ス、文宗皇帝諱ハ圖帖睦爾、武宗ノ次子、至順三年、帝上都  
ニ崩ス、明宗ノ子、郯王懿璘質即位ス、在位二十五  
日ニシテ薨ス、年七歲、寧宗ト順皇帝諱ハ妥懽  
長子、元統元年、妥懽帖睦爾上都ニ即位ス、至元  
元年、唐其勢反シテ伏誅ス、時ニ唐其勢父撒敦ニ  
代リテ左丞相トナル、右丞相伯顏カ獨政ヲ秉ル  
ヲ忿リテ、潛ニ異心ヲ蓄ヘ、勇士ヲ率井テ宮ニ突

入セリ、掩捕シテ之ヲ誅ス。伯顏皇后伯牙吾氏ヲ  
殺ス。六年、伯顏罪アリ、南恩州ニ竄セラレ、道ニ  
死ス。伯顏既ニ唐其勢ヲ誅シ、獨權ヲ專ニシテ自  
恣ナリ、漸異謀アリ、帝怒リテ之ヲ逐ハントス。遂ニ  
脫々世傑班等ト謀ヲ合セ、伯顏ノ罪狀ヲ數メテ  
之ヲ出ス。詔ス皇考恨ヲ飲テ上賓ス。答歸スル所  
アリト、遂ニ文宗ノ廟主ヲ廢シ、太皇太后文宗ノ  
號ヲ削リテ東安州ニ遷ス。太后尋テ崩ス。燕帖古  
思文宗ノ皇子ヲ高麗ニ放リ、道ニ害セラレ、至正四  
年、脫々罷メラル。阿魯圖ヲ右丞相トス。時ニ一人

ヲ刑部尚書トセントス。或其柔軟ナルヲ言フ、阿  
魯圖曰ク、僧子ヲ選フ、強壯ノ人ヲ用ヰルハ、尚  
書ハ人ヲ枉ケ、法ヲ壞ラサルヲ取ル、何ソ強壯ノ  
者ヲセシ。十一年、頼州ノ劉福通、蕭縣ノ李二羅  
田、徐壽輝等ノ兵起ル、先ニ四方盜賊蜂起ス。丁夫  
ヲ發シ、河決ヲ修ルニ及テ、民心益愁怨シテ亂ヲ  
思フ。頼盜皆紅巾ヲ號トス。壽輝鄭水及黃州路ヲ  
攻陷シ、帝ト稱ス。國ノ天完ト號ス。十三年、秦州  
張士誠ノ兵起リテ高郵ニ據リ、誠王ト自稱ス。知  
府李齊屈マシテ死ス。十四年、帝自龍舟ヲ内

苑ニ製ス、精巧人意ニ絶出入帝淫戲ヲ樂ミ群僧  
禁中ニ出入シニ醜聲穢行外ニ著聞ス十五年  
朱元璋兵ヲ起シテ滁州ヲ攻下シ又和陽ヲ下ス  
馮國用ノ謀ヲ用井テ江ヲ渡リ金陵ヲ取リ之ニ  
據ラントス愈通海衆ト船ヲ率井テ來降ス乃舟  
ニ引リ牛渚ニ達ハ遂ニ采石ヲ拔ク明年金陵ニ  
克シ集慶路ヲ應天府トス十八年朱元璋婺州  
ヲ取ル改テ寧越府トス知府王宗顯ニ命シテ郡  
學ヲ開ク葉儀宋濂五經師タリ元璋既ニ寧越ヲ  
撫定ス諸將ニ諭シテ曰ク克城ハ武ヲ以テスト

雖安民ハ必仁ヲ以テス將タル者不殺ヲ心トセ  
ハ國家ノ福ノミニ非ス已モ亦儒ヲ蒙ラシメ  
九年方國珍<sup>先ニ兵ヲ起ス</sup>温台慶元ノ三郡ヲ以  
テ朱元璋ニ附ス天完ノ將陳友諒其主徐壽輝ヲ  
江州ニ徙シ漢王ト自稱ス<sup>明年壽輝ヲ殺ス</sup>二十  
年復搆思監ヲ右丞相トス搆思監官者朴不花ト  
相表裏シ四方ノ警報將士ノ功狀皆壅キテ上聞  
セス論者謂フ元ノ凶フルハ二人ノ罪居多ナリ  
ト二十二年明玉珍<sup>天完ノ將先ニ成都ヲ據ル</sup>隴蜀王ト自  
稱ス<sup>明年帝ト稱ス</sup>二十三年張士誠ノ將呂珍



安豐ニ入リテ其城ニ據ル、朱元璋之ヲ擊走ス、漢  
 主陳友諒先ニ破レテ武昌ニ走ル、洪都ノ圍ハ、朱元璋諸將  
 ヲ帥井テ之ヲ討シ、大ニ鄱陽湖ニ戦ス、友諒敗死  
 ス、其將子理ヲ武昌ニ立ツ、明年朱元璋ニ降ル、湖廣江西皆平ラク、  
 二十四年、朱元璋國號ヲ建テ、吳ト曰フ、字羅帖  
 木兒兵ヲ舉ケテ闕ヲ犯シ、右丞相搠思監ヲ殺ス、  
 太子出奔ス、明年字羅帖木兒等伏誅ス、二十七年、吳ノ兵平  
 江ニ克チ、張士誠ヲ執ヘテ歸ル、又方國珍ヲ討シ  
 之ヲ降ス、吳ノ兵山東ノ郡縣ヲ徇ヘテ皆之ヲ下  
 ス、

明紀 姓ハ朱氏先世沛ニ家ス、父客ニ徙ル、再遷  
 州ニ徙ル、洪武應天ニ都ス、郡ス、永樂順天

太祖皇帝 諱ハ元璋、字ハ國瑞、洪武元年、吳ノ相國李善長、吳  
 王ヲ尊テ皇帝トス、國ヲ明ト號ス、太祖年十七、孤  
 ニシテ依ル所ナシ、皇覺寺ニ入リテ僧トナル、初  
 郭子興ニ濠州ニ從ヒ戰ヘハ輒勝ツ、滁州ヲ下シ、  
 李善長ヲ得テ大ニ之ヲ悦ブ、是ニ至リテ帝位ニ  
 即ク、元ヲ洪武ト建ツ、善長ヲ左丞相トシ、徐達ヲ  
 右丞相トス、妃馬氏ヲ立テ、皇后トス、郭子興ノ  
 撫女ナリ、帝后族ヲ官セント欲ス、后謝シテ曰ク、

薛祿ヲ外家ニ私スルハ法ニ非ス、力辭シテ止ム、  
福建廣東西山東悉平ラク、乃徐達ニ命シ、直ニ元  
ヲ都ヲ取ラシム、常遇春舟師ヲ率井テ進ム、元ノ  
師風ヲ望テ奔潰ス、元主后妃太子ト北上都ニ奔  
ル、達等元都ニ入ル、應天ヲ南京トシ、開封ヲ北京  
トス、始テ吏戸禮兵刑工ノ六部ヲ置ク、徐達太原  
ニ克ツ、山西平ク、二年、徐達奉元ニ克ツ、常遇春  
鳳翔ニ克ツ、又開平ニ克ツ、元主和林ニ奔ル、遇春  
軍ニ卒ス、遇春常ニ自言ス、能ク十萬ノ衆ニ將トシ  
テ天下ニ横行セント、軍中常十萬ト稱ス、帝曰ク、

平定ノ功ハ遇春十カ八九ニ居ル、陝西平ク、帝口  
久、國ヲ治ムルハ教化ヲ先トス、天下府州縣ニ皆  
學ヲ立ツ、三年、徐達李文忠ヲ遣リテ北伐ス、大  
ニ元ノ擴廓帖木兒ヲ破ル、元帝應昌ニ殂ス、李文  
忠應昌ニ克ツ、元ノ皇孫買的里八剌ヲ獲テ京師  
ニ送ル、封シテ崇禮侯トス、大ニ功臣ヲ封ス、四  
年、湯和重慶ヲ下ス、夏ノ明昇降ル、蜀地平ラク、  
五年、翰林院待制王禕ヲ雲南ニ使ス、元ノ梁王把  
匝剌瓦爾密雲南ニ鎮ス、禕往テ招諭ス、會脱々元  
主ノ所ヨリ來ル、梁王禕ヲ出シテ見エシム、脱々

禕ヲ屈セントス、禕叱シテ曰久天既ニ元ノ命ヲ訖ヘリ、燔火餘燼敢テ日月ト明ヲ争ハンヤ、屈セスレテ自刎ス、八年、誠意伯劉基卒ス、基帝ヲ佐ケテ天下ヲ定ム、暇アレハ王道ヲ敷陳ス、帝張子房ニ比ス、平遙訓導業居昇ヲ獄ニ下レ之ヲ殺ス、時ニ災異ヲ以テ直言ヲ求ム、居昇上書シテ封ヲ分ツノ太侈、刑ヲ用井ルノ太繁、治ヲ求ムルノ太急ナルヲ論ス、帝大ニ怒リテ獄ニ下ス、疾死ス、十三年、胡惟庸謀反ス、惟庸倭寇ヲ招キ、元ニ臣ト稱シ、兵ヲ請テ外應セシム、事未發セス、會、惟庸ノ

子車ヨリ墜チテ死ス、惟庸車夫ヲ殺ス、帝怒ル、惟庸懼ヒ、陳寧涂節等ト謀リテ事ヲ起ス、既ニレテ節事ノ成ラサルコトヲ知リテ變ヲ上ス、惟庸伏誅ス、節モ亦誅セラル、帝惟庸ノ亂ニ懲リテ、遂ニ丞相ヲ罷メ、政ヲ六部ニ歸ス、宋濂ヲ茂州ニ安置ス、道ニ卒ス、濂太子ニ傳タルコト十餘年、言動必禮法ヲ以テス、是ニ至リテ其孫胡惟庸ニ黨シテ刑セラル、濂モ械セラレテ京ニ至ル、帝怒テ之ヲ誅ヤント欲ス、皇后諫ム、帝意解ク、十四年、傳友德曲靖ヲ下ス、雲南平ラク、十五年、大理寺卿李

仕魯ヲ殺ス、帝頗釋氏ヲ好ミ、爲ニ職官ヲ立ツ、仕魯數之ヲ論スレトモ聽カス、遂ニ駭骨ヲ乞ヒ、帝前ニ置ク、帝大ニ怒リ、武士ニ命シテ之ヲ梓搏ス、立トコロニ死ス、皇后馬氏崩ス、后疾亟ナリ、帝言ハント欲スル所ヲ問フ、后曰ク、願クハ陛下賢ヲ求メ諫ヲ納レ、終ヲ慎ム始ノ如クセヨ、十八年、太傅魏國公徐達卒ス、帝嘗テ達ヲ稱レテ曰ク、矜ラス伐ラス、婦女財帛愛取スル所ナク、中正無疵ナルハ大將軍一人ノミ、二十一年、解縉ヲ監察御史トス、縉七歳ニシテ丈ヲ能クス、十八ニ

シテ進士ニ登ル、封事萬言ヲ上ル、皆人ノ言ハサル所ナリ、帝其識ヲ嘉ス、二十三年、韓國公李善長ニ死ヲ賜フ先ニ善長ノ私親丁氓怨逆ノ罪ヲ案セラル、善長ノ弟胡惟庸ニ交通スト言フ、詞善長ニ連ル、遂ニ死ヲ賜フ、二十五年、皇太子標卒ス、懿文ト謚ス、孫允炆ヲ立テ皇太孫トス、方孝孺ヲ漢中教授トス、帝曰ク、此異人ナリ、留メニ子孫ノ爲ニ太平ヲ輔ケレメン、二十六年、鄭濟ヲ表旌シテ左庶子トス、浦江ノ鄭氏十世同居ス、子孫孝謹ナリ、帝嘗テ鄭濂ニ治家ノ道ヲ問フ、對テ曰

ク婦人ノ言ヲ聽カサルノ、三十一年帝崩ス  
帝春秋高ク猜忌多シ傳友德馮勝ニ  
死ヲ賜ヒ王朴ヲ殺ス皆其罪ニ非ス太孫允攸即  
位ス方孝孺ヲ名テ翰林學士一ス恭閔惠皇帝  
諱ハ允攸太祖ノ子建文元年燕王棣來朝ス陞ニ登  
孫懿文太子ノ子建文元年燕王棣來朝ス陞ニ登  
テ拜セス御史曾鳳韶其不敬ヲ劾ス帝曰ク至親  
ナリ問フコト勿レ時ニ諸王叔父ノ尊ニ憑リテ  
不遜多シ齊泰黃子澄漢七國ヲ平クル事ヲ進ム  
遂ニ周王ヲ廢レ代王ヲ幽レ岷土ヲ庶人トス齊  
王湘王並ニ謀逆ヲ以テ伏誅ス燕王國ニ還リ兵  
ヲ舉テ反ス靖難ト號ス耿炳文ヲ遣リテ之ヲ討

ス炳文漳沔河ニ敗績ス李景隆ヲ以テ之ニ代ス  
二年李景隆白溝河ニ敗績ス棣進ミテ德州ヲ  
陷レ轉レテ濟陽ヲ掠ム教諭王省明倫堂ニ坐シ  
謂テ曰ク堂ヲ明倫ト名ツク今日君臣ノ義何如  
シ大哭レテ柱ニ觸レテ死ス都督戚庸參政鐵鉉  
カヲ悉クレテ防禦シ大ニ燕ノ衆ヲ挫ク棣水ヲ  
城中ニ灌ク鉉詎リ降り棣ヲ誘ヒテ城ニ入レ鐵  
板ヲ下スニ中ラス棣奔テ營ニ歸ル庸鉉等遂ニ  
德州ヲ復ス三年戚庸棣ヲ夾河ニ敗リ其將潭  
淵ヲ斬ル諸將皆帝ノ詔シテ朕ニ叔父ヲ殺スノ

名ヲ負ハスコト勿レト曰フヲ以テ相顧テ敢テ  
一矢ヲ發セフ、遂ニ敗レテ德州ニ還ル、四年徐  
輝祖ニ命シ、師ヲ帥ヅテ棣ノ兵ヲ山東ニ禦カシ  
ム、官軍連ニ棣ノ兵ヲ淮北ニ敗ル、燕人懼ル、帝訛  
言ヲ聞テ輝祖ヲ召シ還ス、棣ノ兵淮ヲ渡リ揚州  
ヲ陷ル、遂ニ江ヲ渡テ京師ヲ犯ス、谷王穗及李景  
隆金川門ヲ開テ迎降ス、都城陷ル、宮中火起ル、帝  
終ル所ヲ知ラス、棣自立シテ皇帝トナル、建文ノ  
年號ヲ革除シ、洪武三十五年ト稱ス、兵部尚書齊  
泰太常卿黃子澄文學博士方孝孺ヲ殺シ、皆其族

ヲ夷ス、黨ニ坐シテ死スル者數百人、孝孺衰經ニ  
テ闕下ニ悲號ス、帝勞シテ曰ク先生自苦ムコト  
勿レ、朕周公ノ成王ヲ輔クルニ效ハント欲スル  
ノミ、孝孺曰ク、成王安ニカ在ル、帝曰ク、自焚死ス、  
曰ク、何ソ其子ヲ立テサル、帝曰ク、此朕ノ家事ナ  
リ、因テ筆ヲ授ケテ即位ノ詔ヲ艸セシム、孝孺筆  
ヲ投シテ哭シ且罵ル、帝大ニ怒リ、命シテ九族ヲ  
夷ス、

明治十五年四月七日  
翻刻御届  
同年同月出版

翻刻人

大阪府平民

柏原政次郎

大阪府下東區淡路町  
三丁目廿三番地

發兌人

大阪心齋橋安土町

同 安土町北へ入

同 南走丁目

同 北久太郎町甲

鹿田静七  
花井卯助  
松村九兵衛  
柳原喜兵衛